

議会広報特別委員会

伊藤一彦(委員長)、渡邊 正(副委員長)、三浦 侃、高橋悦郎、大森力男、立花安文

●宮城県美里町
美里町議会だより編集特別委員会は、3常任委員会から各2人の計6人で構成され、1回の発行に当たり編集会議を5回ほど開催し、議会だよりは定例会閉会の約40日後に発行している。一般質問の掲載は本市と同じ1人1ページであるが、全質問項目の掲載を基本としている点が本市とは異なっていた。

また、議会だよりにクイズコーナーを設け、はがきなどの応募により読者数の把握に役立てるなどの工夫が見受けられた。
●宮城県七ヶ浜町
七ヶ浜町議会広報調査特別委員会は、各常任委員会から選出された委員6人で構成され、1回の発行に当たり編集会議を4、5回ほど開催し、定例会閉会后、約1カ月以内の発行を目標としている。本市との違いは、「議会広報発行に関する申し合わせ事項」を制定している点であり、一般質問に



宮城県美里町役場 (11月8日)

手で取りついでひろげる広報を

- ・ 期日……………平成22年11月8日～9日
- ・ 研修先……………宮城県美里町、宮城県七ヶ浜町
- ・ 内容……………議会広報に関する編集方針、原稿のまとめ方、編集委員の役割分担、広報に対する住民の反応など

総務常任委員会

関 善次郎(委員長)、三浦 侃(副委員長)、米田定男、伊藤一彦、田中榮司夫、渡邊 正

●宮城県石巻市
この助成金は、市民の一体感を醸成するまちづくり活動や各地域での振興活動を自主的に行う団体を支援するものである。当初は、団体が自立して事業ができるまでの支援という考えであったが、課



宮城県登米市役所 (10月6日)

市民への協働で条例制定は

- ① 地域づくり基金事業助成金の活用状況
 - ② 登米市まちづくり基本条例策定委員会活動状況
 - ③ 市民バス・住民バスの実施状況
 - ④ 石巻市の組織・機構
- ▼所感 広範囲に取り組みなければならぬ地域づくりや行政組織の政策や計画などに参考になるものであった。

- ・ 期日……………平成22年10月6日～7日
- ・ 研修先……………宮城県登米市、宮城県石巻市
- ・ 内容……………合併後の特色ある地域まちづくり、行政組織について、など

政務調査会の部会活動

教育 地域医療の課題を学ぶ

昨年11月1日、市議政務調査会教育民生部会(議員8人で構成。部長=小野寺昭一議員)は、いこいの村岩手で、地域医療に関する懇談会を開催しました。この懇談会は、市議会で医療部門を所管する議員と市内の医療機関関係者が一同に会し、地域医療に関する情報交換を行うことを目的として、今回初めて開催。部会員8人の議員全員を含む、市内で開業する院長、勤務する医師など20人は、(社)岩手郡医師会の及川忠人会長(東八幡平病院)の「地域医療の課題」と題する講演に耳を傾けた後、医師の働きがいや食育に対する考え方などについて意見交換を行い、地域医療を理解し課題を解決する方法を見いだそうと、熱心に議論を深めました。



及川忠人医師会長の講演

産業 農業関係の被害を調査



雪でつぶれたビニールハウス

市議政務調査会産業建設部会(議員8人で構成。部長=工藤直道議員)は、昨年末から年始にかけての大雪による農・畜産業施設などの被害状況について、1月18日、現地調査を実施しました。調査には、瀬川健則議長と部会員8人の全議員が出席。雪の重みで押しつぶされた豚舎やほうれんそう栽培用ビニールハウス、ブロイラー鶏舎を調査しました。市産業部農政課などによると、同日現在、被害額は、これらの農・畜産業施設に林業関係も合わせて総額2億6,700万円以上となっています。調査結果を受け部会では、復旧の対応など早急に対策を講ずるよう、市担当部局に要望しました。

議会運営委員会

古川津好(委員長)、米田定男、関 善次郎、小笠原壽男、田村 孝、瀬川健則(オブザーバー)



福島県相馬市役所議場 (10月18日)

議会改革は議員自らの手で

- ① 予算委員会の常任委員会化
 - ② インターネット中継の取り組み
 - ③ 議場の多目的利用
- ▼所感 00人を超えていた。中継のメリットは、議会情報が伝わりやすくなった、情報公開の透明性、放送による緊張感の高まり、ということが挙げられていた。

- ・ 期日……………平成22年10月18日～19日
- ・ 研修先……………福島県相馬市、福島県田村市
- ・ 内容……………予算委員会の常任委員会化、インターネット中継の取り組みについて、など